

英語科学習指導案

指導者 赤松 猛

日時 平成 26 年 11 月 22 日（土） 第 1 校時（10:00～10:50）

年組 中学校第 3 学年 2 組 計 40 名（男子 18 名，女子 22 名）

場所 中学校第 3 学年 2 組教室

題材 発問を通して内容理解を深めよう

題材について

本題材は、L. A. Hill, *Intermediate Steps to Understanding* (Oxford University Press 1980 年) に収録されている 1 編を授業者が一部リライトしたものである。通常使用している検定教科書は *New Horizon 3* (東京書籍) で、今年度になってから、受動態・使役動詞 **make**・現在完了形・疑問詞＋不定詞・形式主語 **it** などを学習し、9 月以降、分詞による後置修飾・間接疑問文・接触節・関係代名詞 **who/which/that** などを学習してきている。中学校で学習する文構造については、ほぼすべての学習を終えようとしている時期であるが、これまでの学習経験を踏まえても、やや長めの文章を読む経験が絶対的に不足していることは疑う余地がない。これ以降、教科書でも **Let's Read 2, 3** および **Further Reading** など読むことを中心とした教材が配置されているが、**Let's Read** でも 300～450 語程度の長さの英語を読まなければならない。これだけの分量を一度に処理して内容を理解できるようにするためには、それなりの時間や経験が必要であり、本題材はそこに至るまでの橋渡しの位置付けである。本題材は 1 編が 150 語程度の長さで、語彙も 1500 語レベルに調整されている。基本的にはジョーク（ユーモア）がオチになっているので、そこが興味深く、また扱いにくい点でもある。

本学級は、個々の生徒と話をすれば明るい性格の生徒も多いのであるが、集団になると、互いに遠慮して発言などが活発に出てこない面をもっている。また、日本語・英語を問わず、普段のコミュニケーションにおいて、自分の考えを適切に他人に伝えることが苦手だったり、問われたことに適切に応答することができなかつたりする生徒も多い。自分の言いたいことを単語でしか表現できない生徒や定期テストの答案において問われていることに直接的に答えられていない解答や文脈を取り違えた解答を目にすることがある。これらの根底にあるのは、英語を話したり読んだりする際に、伝えるための知識や技能が不十分であることに加えて、相手の立場になって考えることや場面・状況を想像することができていないと考えている。

New Horizon 3 の **Let's Read 1 'A Mother's Lullaby'** を扱った際に、本学級の生徒に発問をつくらせてみた。このときには、**Type A**（1 文読めば答えられる問題）、**Type B**（解答は本文中に書かれているが、2 文以上読まないと答えられない問題）、**Type C**（想像力を働かせたり、場面を推測したりするような深い問題）という 3 種類のタイプを提示して、それぞれに当てはまると思うものを書かせた。生徒がつくった発問の中では、「少女が歌う子守歌は木にとってどのように聞こえたか、**"You'll be all right soon."** という木の発言はどのような気持ちで言ったものだろうか、木が見てきた **many things** とはどのようなものだろうか、タイトルに込められた意味は何でしょうか、子守歌にはどのような力がありますか、なぜ少女は少年が亡くなってからも歌い続けたのでしょうか、少女は少年が亡くなったことを知っていたのでしょうか」などの想像力を働かせるような深く考える発問が **Type C** として予想していた以上に多数見られた。一方、**Type B** の発問については、授業の際の授業者の例示に影響されて、代名詞が指すものを問うようなものばかりになってしまった。物語文ということで、心情を推測する発問はつくることができるが、書かれている英文と関連付けて発問をつくることは苦手であるという結果になった。また、*New Horizon 3* の **Unit 5** を扱った際に、日本人中学生と ALT による電子辞書と紙辞書の使用に

関する対話を読んで、いくつかの発問に回答させた。「日本人中学生が紙辞書の存在を知っていたか否か」という点に関連した発問について、生徒 40 名の回答のうち、無回答が 3 件、英文を読み違えて事実を誤認している回答が 2 件、該当部分を和訳しているにすぎない回答が 5 件、英語に基づいて場面や状況を適切に想像できていない回答が 12 件あった。すなわち、半数以上が場面を適切に推測して英文を読めていなかったという結果になった。ある程度は状況を理解していたと思われる残りの 18 名についても、何となく想像してただけで、自分の考えの根拠を主張することができない者が少なからずいた。

本題材を指導するにあたっては、他者とコミュニケーションをとろうとする姿勢や英語を話そうとする意欲を大切にしながら、場面や状況を想像することにより、英文を正確に読み取れるようにしていきたい。もちろん、単に想像するだけでは正確な理解につながらないので、その前提として、語彙や文法に関する正確な知識を伝達しなければならないことは言うまでもない。本題材では、*New Horizon 3*において最近学習したばかりの関係節や接触節、疑問詞＋不定詞が扱われているので、それらの文法的な理解を確認するだけでなく、状況の推測につながるように支援し、本題材の最終文を考えさせる活動においては、文章全体の理解や状況の想像が英語表現に生かせるように支援していきたい。

指導目標

1. 間違いを恐れずに英語で自分の考えを伝えるようにさせる。
2. 場面や状況を推測し、物語の展開を予想できるようにする。
3. 接触節や関係節を用いた後置修飾の文構造を理解できるようにする。

指導計画

1. 状況の読み取り・展開の予測（1）・・・・・・・・・1 時間
2. 状況の読み取り・展開の予測（2）・・・・・・・・・1 時間
3. 状況の読み取り・展開の予測（3）・・・・・・・・・1 時間（本時）
4. 状況の読み取り・展開の予測（4）・・・・・・・・・1 時間

本時の目標

接触節や関係節を用いた後置修飾を理解し、物語の展開を予想することができる。

「学びのつながり」の視点

基本表現の復唱をはじめとした基礎的アウトプット練習は、Ⅱ期前期（小 5～6）からⅡ期後期（中 1）を経て、Ⅲ期（中 2～3）以降に至るまで、英語学習においては重要な位置を占めると考えている。基礎的アウトプット練習とは、発達段階に応じた語彙や文法事項を含む英文をスムーズに産出できるようにする機械的なドリルのことを指し、本題材においては、さまざまな後置修飾を用いた英文の構造・意味を理解し、産出できるようにする活動のことである。また、既習事項である言語に関する体系的知識と状況に応じて言語の機能を意識しながら適切に運用できる技能を結び付けることが「科学的概念」と「生活的概念」の「のぼりおり」であると考え、本題材に関して言うと、後置修飾の文構造などに注意しながら英文の内容を適切に理解することを科学的概念ととらえ、その理解に基づいて、場面や状況を想像しながら、最終文を推測できることを生活的概念と考えている。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. Greetings（2分） 2. Warm-up（8分） □1-minute talk（ペア活動） ・身近な話題についてペアで会話する。 □Reading aloud ・音の連結や変化、弱音などに注意しながら、音読する。 3. Speaking drill（8分） □Repetition drill（ペア活動） ・相手が読む英文を聞いて、正確に復唱する。 □Translation drill（ペア活動） ・日本語を聞いて、それを英語で表現する。 ・後置修飾の構造を確認する。 4. Reading activity（15分） □Words & phrases ・未知語の発音・意味・用法を確認する。 □本文の黙読・音読 ・英文全体を通読することにより、話の概略をつかむ。 □内容理解 ・登場人物は誰か。 <Mary, Mary's husband, Mary's mother> ・Maryが母親の誕生日に贈ったものは何か。 <お茶を入れる機能が付いた目覚まし時計> ・‘tea’という語が4回出てくるが、すべて同じ意味か。 <茶と茶の葉>	○相手に質問するなどして、何とか話を続ける努力をするように指示する。 ○文字と音のつながりを意識させて、未知語でも何とか推測して音読するように指示する。 ○相手に伝えることに重点を置き、適切な声量とスピードで英文を読むように留意させる。 ○速く反応できるようになるまで練習させる。 ○意味のかたまりを意識して練習するように指示する。 ○語レベルで確認しにくいものについては、句または文レベルで確認させる。 ○各文の構造を意識できるように、必要に応じて英文を分割して音読させる。 ○母親に贈ったものは「目覚まし時計」であることを確認する。 ○機械の使い方を説明している状況を具体的に想像させる。

5. Writing activity (15 分)

☐展開の予測

- ・最後の空所に入る英語は何か。

<why do I have to go to bed to make the tea?>

□要約

- ・話の要点を自分のことばで述べる。

6. Consolidation (2 分)

□本文音読

○唯一の正解があるわけではないので、さまざまな回答を引き出し、全体で共有する。

◆与えられた情報から状況を読み取り，展開を推測することができる。

【外国語理解の能力】

○本文全体を読み直し、話のおかしさを感じられるようにする。